

大分教育事務所訪問②-11 (計84)

由布市立庄内中学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

目指すゴールを「自立した社会人」と定め、学校の教育目標「賢く、優しく、たくましく、地域と共に未来を創造する生徒の育成」を達成するために、授業改善を中心に取り組んでいます。本校は、由布市教育研究協議会指定研究校として、研究主題を「『深い学び』を実現する学習活動の在り方 ～『知識の構造』をもとにした学習場面の設定、『問い』と『対話』の工夫を通して～」と定め、3年目の実践研究を行っています。

研究の柱は2つあり「新大分スタンダードに沿って、基礎基本を確実に定着させる授業改善」においては、「比較する」「繋げる」をキーワードとして、「問いの工夫」や「振り返り」について研究を行っています。また、2本目の柱である「共感的な人間関係を土台とした対話の推進」については、「日曜討論会」のような討論だけではなく「徹子の部屋」のような相手の良さを引き出す「対話の工夫」を推進しています。

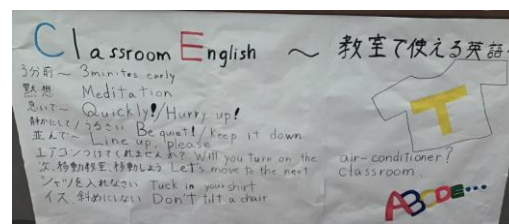
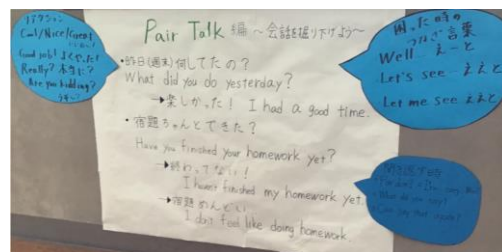
特に注目すべきは、田村学氏の「知識の構造」をもとに、実践を通して改良した4つの庄内中アレンジ版を定め、各教科で取り組んでいることです。本研究の内容は多くの学校の参考になることでしょう。(11月12日に公開授業があります。楽しみです!)



NO.373 2021年10月 由布市立庄内中学校

笑顔の連鎖

笑顔で質問をする先生。笑顔で答える生徒。その様子を見ているみんなも笑顔になっている。



授業から学ぶ

「学校として育成を目指す資質・能力」を、「学んだことを自分の言葉でまとめられる力」として、それぞれの活動において意識した実践を行っています。今回は、2年英語の授業を参観しましたが、対話の工夫や問いの工夫が計画的に行われ、生徒達も学び合いを通して協働的に課題を解決していました。

また、本校の「振り返り」は、評価問題(小テスト)や単元の節目には文章で振り返る等、単元全体を通して評価計画を定めています。今後は、生徒達が何ができるようになった。どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」とすることで、「ねらい」との連動や評価規準がより明確になると思いました。



NO.375 2021年10月 由布市立庄内中学校

価値の発見

一瞬でも事実。写真はその人の価値を見事に表現している。